

1. 採用関係について

Q.採用情報について教えてください。



A.<http://www.fra.affrc.go.jp/saiyo/>
現在、当機構のHPに令和3年4月採用に向けた募集要項を掲載中です!
(事務職、研究開発職、技術職)
是非、当機構HPにアクセスしてください!



Q.採用試験の内容はどのようなものですか?



A.国家公務員の採用試験に準じた多肢選択式(マーク式)の基礎教養試験(社会、人文及び自然に関する一般知識並びに文書理解、判断推理、数的推理及び資料解釈に関する一般知能を問われる)の後、研究開発職及び技術職は専門試験(水産基礎知識に関する記述試験)、事務職は論文試験(時事小論文)が実施されます。
詳細は、各採用職種の募集要項をご確認下さい。



Q.研究開発職と技術職のどちらにも興味があります。同時に応募する事は可能ですか。



A.研究開発職と技術職は試験日程が異なりますので、併願する事も可能です。
ただし、研究開発職と技術職では大きく業務内容が異なります。それぞれの職種の違いをしっかりと理解したうえで、自分がどんな仕事をしたいのか明確なビジョンを持ってから採用試験に臨んで頂けると嬉しいです。



2. 採用後について

Q.具体的な仕事内容を教えてください。



A. それぞれ、こちらからご確認頂けます！

研究開発職：

http://www.fra.affrc.go.jp/saiyo/favorable_talent_research_staff.pdf

技術職：

http://www.fra.affrc.go.jp/saiyo/favorable_talent_technical_staff.pdf

事務職：

http://www.fra.affrc.go.jp/saiyo/favorable_talent_general_staff.pdf



Q.配属はどの程度希望をとって頂く事が可能ですか。



A.新規採用者の配属先は、現職の職員の人事異動と一体で考えています。

配慮が必要な特別な事情がある場合を除いて、配属先の希望をとることはありません。



Q.(船舶職について)陸上で勤務することはありますか。



A.一部の特殊な役職（船舶コーディネーター）を除いては、基本的に船舶配乗となります。また、本部船舶予備員として配属された場合には、必要に応じて機構の船に派遣される以外は陸上で勤務する事になります。その場合は上位の海技士免状取得や、業務に関連する資格取得に向けた勉強等をしています。



Q.採用されてすぐに、自分の興味のある研究をすることができますか。



A. 科研費への応募で自分の興味のある研究分野について研究を行う事は実施可能ですが、機構の中長期計画から大きく逸脱する研究をすることはできません。（採用直後だと難しいと思います。）



Q.事務職も視野に入れて機構への就職を目指しているが、事務職として勤務する上で身につけておいた方がよいスキルなどを教えて欲しいです。



A.データの集計をする機会が多いため、Excelの集計に関する関数（VLOOKUP、IF関数、ピボットデータテーブルなど）を使いこなせておくと仕事の幅が広がると思います。また、経理に関わる業務に携わる機会が多くあるので、簿記の知識があると業務全体の流れをつかみやすいと思います。



Q.どのような人が活躍されていますか。



A.どの職種や職場でも共通して言えることだと思いますが、1人で完結できる仕事はありません。チームで研究を進めたり、魚を飼育したり、機構の業務に携わったりする事となります。このため、協調性のある方、なおかつ自分の意見を臆することなくきちんと相手に伝えられる方が当機構では沢山活躍されています。



Q.大学院への進学を考えている。機構では大学院に進学された方は何名ほどいるか？



A.大学院に進学された後、機構に就職した方も多数いらっしゃいます。令和2年4月に採用された18名の方のうち、大学院進学後に採用された方は8名でした。研究開発職員では、採用後に社会人大学院で学び、学位取得を目指している方もいます。



Q.研修制度について詳しく教えてください。



A.各勤務地における研修としては、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）により、技術の習得や研究の進め方を学んで頂きます。また、各場所において勉強会などが行われており、そういった場に積極的に参加頂くことで、広い知見を得ることが出来ます。また、研究開発職や技術職の場合、農林水産技術会議事務局や、（公）日本水産資源保護協会などの他機関の組織が主催する研修に参加することも出来ます。（農林水産若手研究者研修、中堅研究者研修、養殖衛生管理者研修等）



Q.（技術職について）今後技術開発を行う魚種はなんですか？



A.技術職については、個体群維持のためにさけます資源についてのふ化放流の実施と技術開発が行われており、今後も継続して取り組んでまいります。



Q.現在、様々な研究所へのインターンシップに参加しているが、機構で研究を行っていくために他に必要なことがあれば教えてください。



A.専門分野に関しては言わずもがな、浅くてもいいので法学と経済学に関する知識、自身の研究成果に関して各種契約や特許出願等を自らの判断で進める必要があるため、関係法令について専門家の話を聞ける程度に学習するのが望ましいです。また、水産研究の多くは実学であるため社会との関わりを切り離せません。そのため水産業の発展に向けた研究課題の立ち上げには経済効果等の考慮も必要なので、少しずつ学習しておくと思えます。



Q.機構採用後に必要となる知識やスキルは何ですか。



A. 私が推したいのは「雑談力」です。チームワークで物事を進めていくうえでは円滑なコミュニケーションが必須です。「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」が仕事では大切だよと聞いた事がある方もいらっしゃるかもしれませんが、それにプラスして仕事とは関係無い話「雑談力」もプラス出来ると円滑なコミュニケーションをとる上で一役買ってくれるのかなと感じています。
(機構のみならず、どの職場でも同じかもしれませんね)



Q. 仕事に取り組む上での心構えや、採用までにやっておいた方がよい事などアドバイスがあれば教えてください。



A. 特に新人さんが陥りがちなものとして、指示された作業を指示されたとおりにこなす作業者マインドに陥ってしまうことがあります。自分のやっていることのゴールはどこにあるのかを常に意識することを心がけて頂ければ、どのような仕事においても成長し続けることが出来るかと思えます。その他、生活するうえで、ということになりますが、公共交通機関が整備されていない勤務地もあるので、自動車運転免許は就職する前に取得されることをおすすめします。



最後までご覧頂き、ありがとうございました！

この他、採用試験に当たり、質問や疑問点、不安な点等ございましたら、下記連絡先までお問い合わせください。

【連絡先】

国立研究開発法人水産研究・教育機構

経営企画部人事課 人事第1係 奥村・山口

TEL:045-277-0141

E-mail : fra-saiyou@ml.affrc.go.jp

沢山のご応募、
お待ちしております！



FRA

